

年間第二十二主日

2017.9.3

マタイ 16・21-27

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高神父

今日の福音は、先週のペトロの信仰告白に続く、マタイ 16 章の 21 節から始まっています。「あなたがたは、わたしのことを何者だと言うのか」というイエスの問いかけに対して、「あなたはメシア、生ける神の子です」とペトロは答えたのでした。このペトロの信仰宣言を受けて、イエスはペトロを礎として、その上にご自分の教会を建てると約束してくださったのです。

わたしたちがカトリック信者として招き入れられた教会は、ペトロのイエスに対する信仰を受け継ぐ教会です。わたしたちも洗礼を受けることによって、教会に受け継がれてきた信仰を受け入れて、ペトロと同じようにイエスに対して、「あなたはメシア・わたしたちの救い主、生ける神の子です」との信仰を宣言する者となりました。「あなたは幸いだ。あなたにこのことを示したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ」という、先週聴いたイエスのペトロに対することばが示しているように、わたしたち一人ひとりにとっても、このような信仰に導き入れられたこと自体が、神の恵みによることなのです。

「あなたは幸いだ。あなたにこのことを示したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ」とイエスが言われたとき、ペトロはこのイエスのことばをどこまで理解できていたのでしょうか。そして、イエスがペトロを礎として建てると約束された教会に導かれて、洗礼を受け、イエスを「神の子、メシア・わたしたちの救い主」と信じる者たちとされたわたしたちも、どこまで、このイエスのことばを理解できていると言えるのでしょうか。

何故このように言うかと言えば、ペトロを礎とする教会が、そして、その教会において、「あなたは神の子、メシア・わたしたちの救い主」とペトロと同じ信仰告白するわたしたちが信じるイエスは、十字架に架けられたイエスだからです。そればかりではなく、今日の福音のイエスのことばが示しているように、十字架に架けられたイエスは、イエスを信じる者たちを、ご自分がたどられた十字架の道に従うよう求めるイエスだからです。そのようなイエスに対して、「あなたは神の子、メシア・わたしたちの救い主」とわたしたちが本当に信じているとするなら、それは、イエスが言われるように、天の父である神がわたしたちにそのことを示してくださらなければ、到底受け入れることが出来ないことです。わたしたちが信じる信仰は、十字架のイエスにおいて、わたしたちを真のいのちに導き入れようとしておられる神の恵みの招きに応えようとする

信仰です。わたしたちはそのような信仰を、人間であるわたしたちたちの判断と決断によって自分のものとするのは出来ません。それにもかかわらず、わたしたちが十字架に架けられたイエスを信じているとするなら、それは神がわたしたちの中で行ってくださること、すなわち神の恵みのみわざそのものであるとしか言えないと思います。それゆえに、わたしたちのカトリック信者としての信仰そのものが、神がわたしたちに開き、示してくださった最も大きな恵みなのです。

今日の福音は、「このときから、イエスはご自分が必ずエルサレムに行つて、(中略)多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっていると、弟子たちに打ち明け始められた」というふうに始まっています。始めにも申しましたように、今日の福音の箇所は、先週のペトロの信仰告白に続く箇所です。そのように受け止めるなら、今日の福音の始めの「このときから」という「このとき」とは、教会の礎とされたペトロが、弟子たちを代表して、「あなたはメシア、生きる神の子です」とイエスへの信仰を宣言した、あのときからということになります。ペトロにおいてそうであったように、わたしたちの中にイエスへの信仰が成熟するのを待って、イエスは、ご自分がどのようにして、わたしたちのメシア・救い主となられるのかということをはっきりと明らかにしてくださるのです。

「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません」とペトロが思わず叫んだように、わたしたちにとっても、わたしたちが信じるわたしたちの救い主イエスが十字架に架けられて殺されるイエスであるということは受け入れがたいことです。しかも、十字架の道を行かれるイエスは、「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」と呼びかけておられるイエスです。そのようなイエスに対して、「あなたこそメシア・わたしたちの救い主」と信じる信仰が、わたしたちのカトリック信者としての信仰です。そのような信仰がわたしたちの中に生きていけば、それは、先ほども述べたように、わたしたちがペトロを礎としてイエスがお建てになった教会と出会うことによって、神がわたしたちのうちに開いてくださった神の恵みによることなのです。何故なら、わたしたちの人間的な思いによっては、十字架に架けられて殺されることになっているイエス、わたしたちをその十字架への歩みに従うように求めるイエスを、わたしたちのメシア・救い主として受け入れることは不可能と思われるからです。

「サタン、引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている」。わたしたちが信じる十字架のイエスが、わたしたちを招き入れようとしておられる信仰の世界、神の恵みの世界に眼が開かれ、イ

イエスの十字架の道に従うためには、わたしたちもペトロに向けられたイエスのこの厳しいことばに打たれる必要があります。この厳しいおことばに打ちのめされ、そこから立ち上がって、なおイエスの後についてゆこうとするとき、イエスがわたしたちを招き入れようとしておられる、わたしたちの信仰の世界が開かれるのです。

「わたしについて来たい者は自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」。イエスのこの招きのことばが、何故、わたしたちにとって、神の大いなる恵みによる救いへの招きとなるのでしょうか。

わたしたちがこの世で味わう全ての苦しみは、このイエスのことばを受け入れることが出来るとき、イエスの十字架に従う道となるからです。わたしたちが経験するすべての苦しみの中で、イエスをメシアと信じる者たちは、十字架に架けられて殺されたメシア・イエスが、その苦しみの中に共にいてくださることを見出すことが出来るからです。十字架に架けられて殺されたイエスは、そのようにしてわたしたちの世界を救ってくださったことを、十字架のイエスのおことばとして受け止めさせていただけるからです。わたしたちの苦しみが、十字架のイエスに従うためのものであることを悟らせていただけるとき、わたしたちは自分の苦しみの渦中であって、その自分の苦しみにも意味があることを知ることが出来るからです。何よりも、その苦しみの中であって、自分が信じる十字架のイエスが、他のどんなときよりも自分の近くいてくださると受け止めることが出来るからです。そのイエスに結ばれて、そのイエスに全てを委ねることができるなら、共にいてくださる十字架のイエスは、わたしたちをも、その復活のいのちに向って連れ出してくださることを、希望のうちに受け止めることが出来るからです。これがわたしたちの信仰です。この信仰を生きることが出来るとき、わたしたちは、自分のいのちを救おうとする、この世に生きるわたしたちの全ての足搔きから解放された、真のいのちの自由を味わうことができることでしょう。この全てが、わたしたちをイエスへの信仰に導き入れてくださった神の恵みによることです。その恵みに感謝して、その恵みの中で生きることが出来ることを願って、今日もこのミサをささげて、わたしたちが信じる、十字架のイエスに力づけられたいと思います。